

とっとう通信

2025年8月25日発行

269号

「とっとう通信」は
毎週発行の
メールマガジンです。
いつも読んでいただき
ありがとうございます。

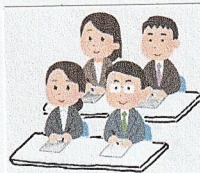
こんにちは！平川です。残暑もようやく陰りを見せるこの頃となりましたが、お元氣でお過ごしでしょうか。さて、この時期になると思うことがあります。セミのヒグラシってご存知ですか。あの鳴き声を夕暮れに聞くと、なんだか切なくなりませんか。少し涼しくて、寂しくて、悲しくて、そんな感情になりませんか。私は小さい頃、小学校夏の神社で遊んでいた時、鳴き声が降って来て、急に不安になり走って帰りました。同じセミでもミンミンゼミは夏休み、プール、虫取りを連想する楽しいイメージなんですけどね。メールに鳴き声はつまずでは今月もはりきっていきましょう。

トラブルが一瞬にして感動に

先日、とても感動することがありました。たわいもない出来事ですが、私にとっては深く考えさせられる出来事でした。その時の状況をうまくお伝え出来るか分かりませんが、聞いて下さい。

私は某経営者団体で経営力や人間力を学んでいます。その学びの一つに、毎週二回、早朝にセミナーがあります。講話者の貴重な体験談を聞きます。人の人生を知ること、とても勉強になります。まずセミナーが始まると、会場の歌を皆さんで歌います。歌は二つあり、曲（メロディ）は同じですが、歌詞が違います。偶数月と奇数月で歌い分けています。これを音楽CDに合わせて歌うのです。

さてここから先日の出来事です。今月は8月ですので、偶数月の曲をかけるべきところを、音楽担当者が間違えて、奇数月の曲をかけてしまったのです。その日の参加者は40名ほどでした。すぐに一部の方がCDが違ふことに気づき、歌っている歌詞と合わないものですか、と歌声や曲が違ふことに気づき、歌っていません。何が起ったの？とキョロキョロしている人もいます。音楽担当者をみると、顔の前で両手を合わせ「間違えました。ごめんなさい」と申し訳なさそうにされています。



ています。さてこの状況をどうしようか。このまま、ちぐはぐな感じで、最後までやり過ごすか、それとも一旦CDを止めて仕切りなおすか。そう思った時でした。後方で誰かが、大きな声で歌い始めたのです。このまま堂々と歌いましょう。と皆さんをリードするかのようです。すると、それにつられて大きな声で歌う人が、水面に石を投げた波紋みたいに広がり、会場全体がいつも以上に大きな歌声になったのです。私は歌っている最中に、なんともいえない優しさの一体感に包まれ、暖かい気分になりました。CDの音もかき消され、最後までかけ間違えた事に気づかない人もいたほどでした。ややもすると、音楽担当者への責め心で終始する出来事が、一瞬にして感動に変わったのです。

私たちは、小さなやり切った感を得ました。さて大きな声で歌ってくださったのは、入会二年にも満たない、安丸さんという方でした。3歳の若者です。なぜ大きな声で歌ったのですか。とセミナー後に尋ねると、「すぐにCDのかけ間違えに気づいたので、どうにかしてその場をカバーしようと、普段よりも大きな声で歌いました」とのことでした。とっさの行動に感服しました。考えるよりも先に体が勝手に反応したのです。簡単に出来ることではありません。私はあれこれと考えて動けません。安丸さんは元自衛官です。その頃の経験から培われたのでしょうか。「今まで人の役に立ちたい、人を助けられる人でありたい」と思い、生きてきました。とも言われていました。きっと満員電車でも、本能的にぱっとお尻寄りに席を譲られる方なのでしょうね。私は早速、この出来事を、伝えるかな？と思いつながら、妻と息子に話をしました。すると、すんなりと理解してくれて、感動を共有できました。あのトラブルに立ち会えて良かった。音楽担当の方にも感謝です。自分はどう生きようべきか。普段からの心構えは大切ですね。私の半分の年齢の安丸さんから、人生で大切な事を学びました。



発行/有限会社アサム 平川雅樹
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36
☎:092-321-4001 ✉:hirakawa@asam.jp

・伊都倫理法人会ブログ : <https://itorinri.com/>